

鶴ヶ島第一小 小学校

 評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果について の分析・課題 ・全ての対象者から概ね肯定的な評価を得ている。しかし「保護者」は、肯定的な評価である①+②の割合が82%となっており、他の対象者からの評価に比べ低くなっている。また、やや否定的な評価である③の割合が、他の評価対象者よりも高くなっている。 ・保護者へ周知していく必要がある。
	児童	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	課題解決 への方策 ・今後も授業参観や学校行事等の際に、その行事や取組の目的と学校教育目標との関連を伝え(学校便り、校長講話等で)繰り返し発信を行っていく。 ・児童や保護者の理解に繋がるように、学校教育目標をHPや情報配信システム等を活用し、積極的に発信していく。
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係者 評価委員会 による評価 ・学校便りやホームページ、掲示物において、教育目標の周知はできており、繰り返し目にすることもあった。そのような取組は、有効であると思うので今後も続けてほしい。 ・保護者への啓発については、「かしこく・なかよく・たくましく」との関連について、より分かりやすく伝えていく工夫を継続してほしい。
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	

鶴ヶ島第一小 小学校

 評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学級経営	教職員	②私は、児童のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果について の分析・課題 ・全ての対象者から90%以上の肯定的な評価を得ることができた。その中でも「教職員」と「保護者」で『そう思う』の評価である①が約30%であるのに対して、「児童」の①の割合が60%以上となっており、子どもは周囲の大人以上に学級生活に満足していることがわかる。
	児童	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■系列1 ■系列2 ■系列3 ■系列4 ■系列5	課題解決への方策 ・教職員は、夏季休業日などを活用した児童理解や教育相談的な手法を用いた面談方法の研修を行う。具体的には、ハイパーQUの結果を分析し、学級内で居場所づくりがうまくいっていない児童への支援対策を学び合う。 ・引き続き、授業参観や懇談会、土曜公開への来校を積極的に周知し、児童の良さを感じてもらう。少し保護者にも学級の様子を見てもらう。
	保護者	②学校は、児童のよさや可能性を發揮できる学級づくりをしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 ・授業を参観すると「やさしい言葉」「笑顔」等が具現化されていると思われる様子が多く見受けられる。引き続き、児童一人一人を理解し、関わってほしい。 ・「児童」と「保護者」については、『あまりそう思わない』の評価である③が、児童で7%、保護者で8%となっている。さらに、『そう思わない』の評価である④の割合は、「児童」と「保護者」のどちらも1%となった。少ない割合ではあるが、肯定的な人生を妨げるあげるための手立てが必要である。難しいことではあるが、全ての児童が楽しいと感じる学級経営を目指し、行事なども有効活用し、居場所づくりをお願いしたい。
	地域	②学校は、児童のよさや可能性を發揮できる学級経営を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

鶴ヶ島第一小 小学校

 評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導①	教職員	③私は、児童が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果について の分析・課題 ・「教職員」では、肯定的評価が96%と高いが、①『そう思う』よりも②『だいたいそう思う』の割合が高かった。 ・「児童」と「保護者」では③『あまりそう思わない』の割合が、児童で8%(35人)、保護者で6%(23人)であった。
	児童	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策 ・児童の確かな学力を育むために、今後も学校課題研修(「一人残らず学ぶ教室の実現」)等を通しての授業改善等、教員の指導力の向上に努める。 ・児童一人一人の伸びを把握し、具体的な指導に生かせるように、県学力・学習状況調査を有効に活用していく。学習内容の定着を図り、自分の学びの成果(分かった、できた、楽しいなど)を児童自身が実感できる指導と評価を実践していく。
	保護者	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 ・学び合い学習のスタイルも年々定着してきており、集中して学習に取り組める指導が実践できている。 ・自分の意見を言う場を設定できるのは学校ならではの良さである。発表は苦手な児童もいることは分かるが、社会へ向けて大切な経験である。
	地域	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

鶴ヶ島第一小 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察											
学習指導②	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。	<table><tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr><tr><td>50%</td><td>46%</td><td>4%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr></table>	①	②	③	④	⑤	50%	46%	4%	0%	0%	評価結果について の分析・課題	・全ての対象者から90%以上の肯定的な評価を得ることができた。「教職員」と「児童」の評価では①『そう思う』の回答がそれぞれ50%と61%あり、授業の中で学習用端末が効果的に活用されている。「保護者」は、①の割合がそれほど高くなっていない。
	①	②	③	④	⑤										
	50%	46%	4%	0%	0%										
	児童	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。	<table><tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr><tr><td>61%</td><td>32%</td><td>6%</td><td>1%</td><td>0%</td></tr></table>	①	②	③	④	⑤	61%	32%	6%	1%	0%	課題解決 への方策	・情報主任を中心に、校内でのICT活用研修会を行い、学習用端末と紙ベースの資料の使い分けや、タイムパフォーマンスに効果的なアプリ等の有効活用を教職員に広めていく。 ・保護者に対しては、家庭学習における学習用端末を使ったソフトやアプリがあることを積極的に発信し、さらなる理解と協力を得る。また、学校公開日には、積極的に学習用端末を活用した授業を実践し、保護者にも活用状況を知ってもらう。
①	②	③	④	⑤											
61%	32%	6%	1%	0%											
保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	<table><tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr><tr><td>36%</td><td>55%</td><td>7%</td><td>1%</td><td>0%</td></tr></table>	①	②	③	④	⑤	36%	55%	7%	1%	0%	学校関係者 評価委員会による 評価	・学年の実態や教科の内容(指導内容の特性)に合わせて、工夫して利活用ができています。 ・ICT機器の使い過ぎは、いじめや生活リズムの乱れ、児童の健全な成長等で良くない影響があるのではないかと心配されている。情報セキュリティ等の研修を児童と教職員で行っていただきたい。 ・授業の中には、情報量や情報の選択肢が多すぎてしまうことがあり、考えが深まらない場面も見られた。	
①	②	③	④	⑤											
36%	55%	7%	1%	0%											
地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	<table><tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr><tr><td>100%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr></table>	①	②	③	④	⑤	100%	0%	0%	0%	0%			
①	②	③	④	⑤											
100%	0%	0%	0%	0%											

鶴ヶ島第一小 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果について の分析・課題	・全ての対象者から90%以上の肯定的な評価を得ることができた。特に、「児童」については、①『そう思う』の評価が62%と高かった。 ・業間休みや昼休みには、担任も外に出て遊んでいる場面も多く見られ、体育の授業以外でも楽しく体力向上に取り組めていた。
	児童	⑤私は、体育や休み時間に、校庭や体育館などいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	・「児童」と「保護者」の中には、③『あまりそう思わない』の評価が7%いる。体育の授業を中心に児童の体力向上を図る必要がある。 ・持久走大会や長縄大会を引き続き実施して、児童の意欲を高め、主体的に練習に参加し、児童相互で励まし合いながら取り組めるように働きかけていく。
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	・放課後、外で遊ぶ機会が減っている現代の児童にとって、学校での体育の授業や休み時間に体を動かすことは非常に重要である。引き続き、体力向上を目指し取り組んでいただきたい。 ・運動会や持久走大会などの行事は運動が苦手な児童への配慮も必要であるが、児童の心身の成長のためには非常に重要であると思われる。
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

鶴ヶ島第一小 小学校

 評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導①	教職員	⑥私は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果について の分析・課題 ・「教職員」と「児童」の①と②の肯定的な評価の割合がほぼ同じ割合で高い。 ・教職員が、児童一人一人を大切に、寄り添いながら指導・支援してきたことの評価の表れと考えられる。 ・「保護者」は、①と②の肯定的な評価の割合が87%と高いが、②『だいたいそう思う』が①の2.3倍となっている。
	児童	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生やうちのの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 ・今後も生徒指導委員会を中心に全職員で組織的に生徒指導・教育相談等を進める体制で取り組んでいく。 ・教職員間の「報告・連絡・相談」体制を強化し、共通の課題意識による取り組みを継続していく。 ・「いじめ防止、早期発見、早期対応」を重視して、学校全体でいじめ防止の取り組みを継続していき、保護者とも連携を図っていく。
	保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 ・SNSなども含め、複雑化している社会の中で、指導の難しさがあると思うが、家庭への報告・連絡・相談を重んじ、家庭との情報共有・連携を大切にしたい。引き続き、一つ一つのことを丁寧に取り組んでいただきたい。
	地域	⑥学校は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

鶴ヶ島第一小 小学校

 評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察													
生徒指導②	教職員	⑦私は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<table><tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr><tr><td>①</td><td>43%</td></tr><tr><td>②</td><td>54%</td></tr><tr><td>③</td><td>0%</td></tr><tr><td>④</td><td>0%</td></tr><tr><td>⑤</td><td>3%</td></tr></table>	評価項目	割合	①	43%	②	54%	③	0%	④	0%	⑤	3%	評価結果について の分析・課題	・「児童」と「地域」では、肯定的な評価の92%のうち、①『そう思う』の割合が、57%と高い。 ・教職員が、日々の学校生活や様々な学校行事にめあてや目標をもって取り組むように促している成果であると考えられる。 ・「教職員」については、①に比べ、②『だいたいそう思う』の割合が11%高い。
	評価項目	割合															
	①	43%															
	②	54%															
③	0%																
④	0%																
⑤	3%																
児童	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。	<table><tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr><tr><td>①</td><td>57%</td></tr><tr><td>②</td><td>35%</td></tr><tr><td>③</td><td>0%</td></tr><tr><td>④</td><td>0%</td></tr><tr><td>⑤</td><td>7%</td></tr></table>	評価項目	割合	①	57%	②	35%	③	0%	④	0%	⑤	7%	課題解決 への方策	・今後も生徒指導委員会や教育相談部会を中心に全職員で組織的に生徒指導・教育相談等を進める体制を継続する。 ・担任や学年の枠にとどまらず、全教職員で児童の努力やがんばりを認め、褒めて伸ばす教育を継続していく。 ・児童理解のスキルを向上させるための校内研修や同僚との情報交換を積極的に行うようにする。	
評価項目	割合																
①	57%																
②	35%																
③	0%																
④	0%																
⑤	7%																
保護者	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<table><tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr><tr><td>①</td><td>30%</td></tr><tr><td>②</td><td>56%</td></tr><tr><td>③</td><td>2%</td></tr><tr><td>④</td><td>0%</td></tr><tr><td>⑤</td><td>12%</td></tr></table>	評価項目	割合	①	30%	②	56%	③	2%	④	0%	⑤	12%	学校関係者 評価委員会による 評価	・授業参観や休み時間などの様子から、教職員が日頃から行っている指導の成果は表れている。 ・家庭への協力も引き続きお願いをし、児童が自分に自信をもち、成長していけるようにしてほしい。	
評価項目	割合																
①	30%																
②	56%																
③	2%																
④	0%																
⑤	12%																
地域	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	<table><tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr><tr><td>①</td><td>57%</td></tr><tr><td>②</td><td>43%</td></tr><tr><td>③</td><td>0%</td></tr><tr><td>④</td><td>0%</td></tr><tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr></table>	評価項目	割合	①	57%	②	43%	③	0%	④	0%	⑤	0%			
評価項目	割合																
①	57%																
②	43%																
③	0%																
④	0%																
⑤	0%																

鶴ヶ島第一小

小学校

 評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果について ・「教職員」「地域」からは、90%以上の肯定的な評価を得ることができた。 ・「児童」では、苦手なこと等を大人に相談して、大人と一緒に解決できるに対して肯定的な回答をした割合が90%であった。 ・「児童」では、相談できずにいる児童も一定数いる。 ・「保護者」では、個に応じた指導に否定的な考えをもっている保護者も一定数いる。
	児童	⑧私は、苦手なことなどを、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	課題解決への方策 ・児童については、相談しやすい雰囲気や教職員から積極的に話しかける取組が必要である。 ・個人面談や教育相談日を利用して、積極的に保護者と共通理解や連携を図っていく。必要に応じて、個に応じた教材や指導方法の実施も検討していく。 ・特別支援教育への理解を深める校内研修を継続していく。
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係者評価委員会による評価 ・学校教育の根幹であることは理解できるが、児童の人数や学級数において、県で決められた教職員の数で対応せざるを得ない状況での困難さを感じる。難しいことに変わりはないが、家庭と協力し、推進してほしい。 ・校内で、教職員同士がお互いの授業を見合いながら、指導力の向上や学級経営力の向上を図ってほしい。
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	75% 80% 85% 90% 95% 100% □① □② □③ □④ □⑤	

鶴ヶ島第一小

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察													
地域とともにある学校	教職員	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	<table border="1"><thead><tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>①</td><td>29%</td></tr><tr><td>②</td><td>68%</td></tr><tr><td>③</td><td>4%</td></tr><tr><td>④</td><td>0%</td></tr><tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr></tbody></table>	評価項目	割合	①	29%	②	68%	③	4%	④	0%	⑤	0%	評価結果について の分析・課題	・「地域」では、100%の肯定的な評価を得た。 ・「教職員」「保護者」では、②『だいたいそう思う』の評価の割合が60%以上である。 ・“地域と共にある学校づくり”への参画意識を高める必要がある。
	評価項目	割合															
	①	29%															
	②	68%															
③	4%																
④	0%																
⑤	0%																
児童				課題解決 への方策	・学校は、学校応援団や学校運営協議会についての情報発信や学校を身近に感じてもらうための学校教育の状況を発信する必要がある。 ・学校は、学校応援団コーディネーターやPTA本部と連携し、保護者や地域が参加しやすい行事や作業などを事前に告知して地域と共にある学校づくりを推進していく。												
保護者		⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。	<table border="1"><thead><tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>①</td><td>21%</td></tr><tr><td>②</td><td>60%</td></tr><tr><td>③</td><td>17%</td></tr><tr><td>④</td><td>3%</td></tr><tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr></tbody></table>	評価項目	割合	①	21%	②	60%	③	17%	④	3%	⑤	0%	学校関係者 評価委員会による 評価	・学校だよりやホームページ等、啓発への取り組みはできている。さらに理解が深まるよう、学校からの発信の工夫をお願いしたい。 ・引き続き、地域や保護者と共に協力し合い、児童を見守り育てていきたい。
評価項目	割合																
①	21%																
②	60%																
③	17%																
④	3%																
⑤	0%																
地域		⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	<table border="1"><thead><tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>①</td><td>57%</td></tr><tr><td>②</td><td>43%</td></tr><tr><td>③</td><td>0%</td></tr><tr><td>④</td><td>0%</td></tr><tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr></tbody></table>	評価項目	割合	①	57%	②	43%	③	0%	④	0%	⑤	0%		
評価項目	割合																
①	57%																
②	43%																
③	0%																
④	0%																
⑤	0%																

鶴ヶ島第一小 小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果について の分析・課題 1回目の調査(6月実施) ①21% ②61% ③14% ④4% 2回目の調査(1月実施) ①43% ②53% ③0% ④4% ・上記より、教職員一人一人の働き方改革の目的の理解が深まり、業務改善への取り組みが推進されている。 ・働き方改革の本来の目的を十分に踏まえた上で、教職員の心身の健康を考えた、在校時間短縮を継続していくことが課題である。
	児童			課題解決への方策 ・県が推奨している、カエル会議を定期的に企画、運営し、実践へ向けて努力していく。 ・学力向上のための教材研究等、放課後の時間を確保するために、会議や研修の回数の見直しや、時間短縮についての協議の推進を継続していく。
	保護者			学校関係者評価委員会による評価 ・学校・家庭・地域が、ともに手を携え、共に育てていく意識を高めることで、児童の健全な成長につながる。教職員は、授業を中心に「教える」「学ばせる」プロである意識をもって、それに注力できる働き方改革を推進していく必要がある。
	地域			